



大森六中だより

令和4年 9月号
大田区立大森第六中学校
統括校長 菅野 哲郎
TEL 3726-7155

自分の生きる意味を知る。



42日間の夏休みが終わり、2学期が始まりました。大きな事故や病気の報告も無く、変わらず始業式を迎えられたことをとても嬉しく思います。

しかし、生徒の心の内は様々だろうと思います。友達と再会できることを楽しみにしている生徒もいれば、宿題が終わらず焦っている生徒、人付き合いが苦手な生徒もいます。夏休みが永遠に続いて欲しいと思っていた生徒もいるでしょう。そもそも、学校が苦手な生徒もいます。

そんな生徒の事を考えていたら、ある本に出会いました。「学校に行きたくない君へ」という本です。編者は全国不登校新聞社でポプラ社が発行しています。内容は各界の有識者20名に不登校に関するインタビューをまとめたものです。中にはご自身が不登校を経験された方もいます。副題に「大先輩が語る生き方のヒント」とあるように、それまでの自分の頭の中の「当たり前」が当たり前でないこと、どのような経験も生きて行く上で無駄な経験は無いと気付かされます。

この本の中で脳科学者の茂木健一郎さんは、脳の個性として作家の林真理子さんを例に挙げています。「彼女は人前で話すことは苦手ですが、書くことは非常に長けている。このように長所と短所が”ないませ”になっているのが脳の個性であり、満点の個性という

ものは存在しません。学校に通える個性がすばらしく、通えない人が劣っているなんてことはありません。その逆もしかりです」と述べています。また、識字障害で有名な俳優のトム・クルーズ氏やヴァージンググループ創設者のリチャード・ブラウン氏を例に、「彼らは読み書きを得意としない代わりに、会話や他人との関係性を大事にし、その才能を開花させていった。そういうエピソードがたくさん残されています。裏を返せば、本が読める私たちはいかに他人の話の聞いていないか（笑）。」と述べています。そして「脳科学の世界では、もはや『ふつう』『正常』『異常』という言葉も使いません。脳の個性に上下はなく多様であるのが前提だからです」と科学的な事実を紹介しています。

この他の方々も独自の経験や視点から生き方、考え方を述べていますので、読む人は何かそれまでの考えを見直すヒントを得られると思います。興味を持たれた方は是非ご一読ください。

体罰根絶ポスター標語

夏休み中に先生方は体罰根絶のための研修を行い、体罰を根絶するための今年度の標語を

「体罰で生徒の心は変わらない」に決めました。ポスターはホームページで御覧いただけます。

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

今年の夏も・・・

新型コロナ第7波のピークが夏休みにきたため、2022年の夏休みも残念ながら、小学生を迎えるの行事は中止になってしまいました。部活動体験、自然講習会、洗足池清掃、さらにはガーデンパーティーなど、例年行っていた行事ができていません。

しかし、確実に前を向いて生徒は成長しています。この夏もさまざまな活動が、粛々に行われ、活躍の場がありました。

勝海舟生誕 20 年プロジェクト

勝海舟記念館主催の勝海舟生誕 200 年プロジェクトが始動しました。六中生が展示の内容に関わる作業が7月22、25、26、28日、8月25日の計5日間に渡って行われました。館長さん、学芸員の方を交えて、どのような展示が、幅広い方に楽しんでもらえるか検討しました。この秋にまとめに入り、来年には展示の運びになる予定です。



記念館を自由に閲覧し、自分たちの関わることのできる箇所を調べ、館長さんの話に耳を傾けていました。

乞うご期待です。

大岡山防災訓練

9月11日(日)朝8時から大岡山駅前防災訓練があり、農援隊18名が参加しました。六中の学校防災訓練も実施していますが、全員が放水訓練はできないの



で、貴重な体験となりました。消火器による初期消火、スタンドパイプによる放水消火を実際に行い、いざという時に必要なことは、大きな声で「火事がおきていること」を知らせ、正しい判断が瞬



時にできるかということです。

バンコク・ユネスコ来校

ユネスコアジア文化センター主催 ASPnet スクールの活動に、生徒会が参加しています。今年もベトナムの中学生と「循環型社会」をテーマにオンライン会議を行いました。その関係もあり、バンコク・ユネスコ所属のタイ8名、ベトナム6名の教員、その他職員8名総勢22名が本校の授業の様子を視察されました。

生徒の学ぶ意欲的な姿に、感心して帰られました。

シビック・アクション【後半】

今年度スタートしたシビック・アクションの後半部分の授業が9月12日6時間目から始まりました。自分が選んだテーマでグループが決まり、協議・調査活動・インタビュー調査を通して、対策を考える学習が行われます。中学生ならではの柔軟な発想が生まれることを期待しています。

2022年2学期も期待と希望に満ちあふれたスタートです。

令和4年度 運動会

7月14日(木)、運動会が開催されました。2度延期になり当日も開催が危ぶまれてましたが、懸命なグラウンド整備のお陰もあって、無事全種目を実施することができました。今年度のスローガンは「青瞬～この瞬間を走り抜け～」です。生徒たちはスローガン同様に競技を走り抜けました。全校種目の「縄は友だち」では、各クラスが一丸となって懸命に跳ぶ姿を見ることができました。



美術部制作の旗



開会式



50m 走



障害物走



障害物走



放送委員のみなさん



学年別リレー



いよいよ大縄



大縄



整理体操



閉会式



表彰

夏休み中の六中

夏休み直前、演劇部の校内公演が2日間に渡って行われました。夏休み中は三者面談、キレイキレイ活動、勝海舟プロジェクト、生徒会の海外とのオンライン交流、部活動の練習、ゴーヤの水やり等で多くの生徒が登校しました。8月4日のキレイキレイ活動では大掃除で手が行き届かなかった細かな場所までを掃除しました。部活動では吹奏楽部が大会に向け練習を重ねる姿が印象的でした。



生徒会役員選挙

10月からスタートする生徒会役員を決める選挙が行われました。立候補者は選挙公報の紙面作製、ポスター作製、朝の挨拶活動、昼の放送での演説、選挙当日の演説など様々な形で意気込みを語りました。裏方として選挙管理委員が責任をもって選挙の受付、集計などを行いました。リモートで選挙演説を聞いた後の投票の際は各クラス静かに真剣に候補者の名前に○をつけていました。